－役員エッセイ－

大通公園を望む窓辺から

早春の東京の隠れ家

常任理事　橋本　洋一

鉄橋を渡って黄色い総武線の電車が秋葉原方面から濃緑色の神田川を横切って御茶ノ水駅に入ってきた。２、３分後に神田方面から、オレンジ色の中央線の電車が旧・日立本社跡地に建てられたソラシティのビルの位置で総武線の鉄路と平行となって御茶ノ水駅に入る。今度は御茶ノ水駅を出た中央線の電車が総武線の線路の下に位置する小トンネルを通って神田駅、東京駅方面に走っていく。

バリアフリーの工事中であるJR御茶ノ水駅を中心に、中央線と総武線の電車が両方向から数分おきに出入りするのをずっとみていると、時の流れから独立した自分の存在にふと気づく。

JR御茶ノ水駅聖橋の位置からみてソラシティビルの後ろ側に誕生した新しい複合施設ワテラスの中にたまたま隠れ家を求めることができた。

このワテラスは地上41階の威容を誇るオフィスとレジデンス（居住空間）の混在複合施設で、竣工後、はやくも今年の３月で３年が経過する。

ようやく、昨日、昨年末に注文した薄緑色と黄色のオーダーカーテンを取り付け、洗濯機も設置することができた。今日の午後には極安で購入した50インチのテレビがやってくる。年内に机と椅子、応接セットそして冷蔵庫とワインセラーを設置すれば、ほぼ必要なものが揃うことになる。こういった環境が実現する時期は私のへそくりのたまり具合に完全に依存しているので、不確定要素がまだ十二分にありうる。

ゲストフロアの20階からはニコライ堂、明治大学のリバティタワーそして、漱石が通院したＩ眼科病院が眼下に見える。

適度に冷えた絹のワイン《モンラッシュ》を口に含みながら、漱石が歩いた街並みと東京の空を満喫するのも、隠れ家を手に入れた特権ではと思いながら、その日の来るのが待ちどうしい早春のひとときでもある。

人口減少の中にも夢

理事　齋藤　孝次

大通公園に面した、ル・トロワビル７階のフレンチのお店から見るホワイトイルミネーションは、テレビ塔、大通公園の素晴らしいパノラマを映し出している。

素晴らしい眺めに見惚れながら今後の医療、介護の展望を考えてみると、現場で一番困っていることはやはり、質の高い人材の確保ではないかと思う。

各種の専門学校から大学への転化が進み、ある程度充実してきている部分もあるが、地方ではまだまだ大変で、また、介護職になると札幌ですら確保が難しい。基本的には、やりがいの感じられる、そして働く環境もそれなりに充実したものにしていかなければならない。一方で少子化の進行によりなかなか単純には解決しない。

その解決策のひとつとして、外国人労働者の活用が浮かび上がる。外国人労働者は今後増えていくことが予想されるが、その環境を整えていかなければ安定した労働力として定着することは難しいのではと考えている。

世の中をみると難題が山積している。地球温暖化問題は種々の災害が日本でも身近に感じられるし、ヨーロッパの難民問題は中東の無政府状態に起因すると思われるがこれも大きな人災であろう。イスラエル、パレスチナの問題も解決策はなく、中国、ロシア、朝鮮半島と数えあげればきりがない難題ばかりである。

しかし、医療での夢は少しずつ実現してきている。

そのひとつは、免疫療法の新しい１ページが開かれたことである。悪性黒色腫に続き、肺がんにも適応となり、さらには他のがんへの研究も進められていると聞く。ノーベル賞に値するのではと考えている。また、もうひとつは再生医療に対する期待である。札幌医科大学の本望教授の脳梗塞、脊髄損傷の治験は順調に進んでいるし、iPS細胞もニュースをにぎわせている。

これまでの医療の限界を超える時代がやってくる。楽しみである。